

優秀賞



歩く 見つける 繋がる

キャンパスを歩くたびに新たな景色や居場所、出会いを見つけることのできるセンターコートの特案



利用者はその時々に応じて居心地の良い場所を選択し、滞在する。



テラス内で屋外授業が行われている様子。



材質・高さの異なるデッキが様々な滞留空間を生む。

01 豊橋技術科学大学の現状

明確な軸線とモダニズムデザイン

豊橋技術科学大学キャンパスは、明快な軸線計画と白基調の建築群により、工科系大学らしい秩序と統一感ある景観を形成している。



交流が生まれにくいキャンパス構成

一方で、本キャンパスは機能分離型の配置により人の交流が生まれにくい、センターコート等のパブリック空間も滞留や賑わいの場として十分に機能していない。



屋外滞在を阻む強風と暑熱

豊橋特有の温暖な気候と強い風環境により、屋外空間は滞留しにくく、夏季は日射や暑熱の影響で長時間利用が厳しい点が課題である。



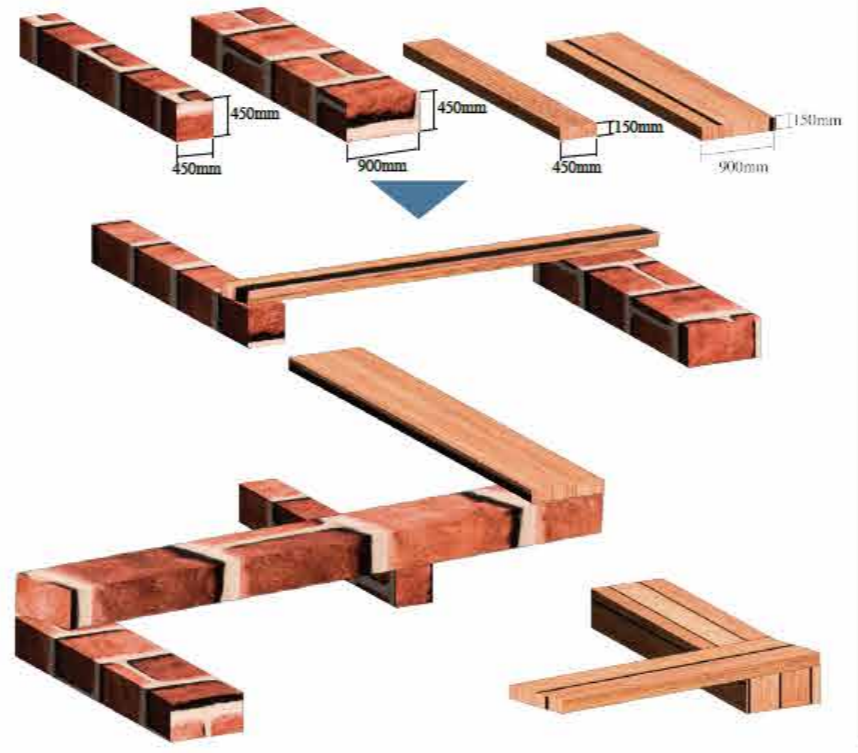
02 歩くほどに新たな出会いや発見が得られる空間へ

本提案では、センターコートを単なる通過動線ではなく、歩く行為そのものが魅力となる空間として再構成する。視線や居場所が歩くたびに変わり、自然な滞留や寄り道を生むことで、移動の場から活動の場へと転換する。これにより人の滞在が促され、賑わいとキャンパス全体の活気を生み出すことを目指す

03 屋外での滞在を促進するための空間づくり

素材、寸法の異なる直方体の挿入

4種類の規格寸法と2つの素材(赤煉瓦・木材)を組み合わせて作成された直方体を、テラスの形状に合わせて積層・交差させながら配置する。これにより、素材や高さの異なる多様な空間が所々に形成され、利用者はその時々に応じて居心地の良い場所を選択して滞在することができる。



新たな出会いや居場所の発見を促す歩行空間

テラスや植栽をやや不規則に配置することで、視線や進行方向が緩やかに変化する、ゆるやかな歩行空間を形成した。一方で、福利施設と各棟を最短距離で結ぶ明快な動線計画も併せ持たせ、日常動線としての効率性を確保している。これにより、目的地へ向かう途中で立ち止まりや寄り道が自然に生まれ、新たな出会いや発見を誘発する歩行体験が生まれると考

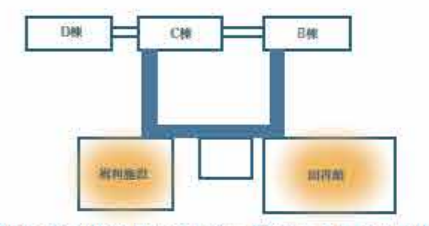


気候問題緩和のための植栽配置及庇構造

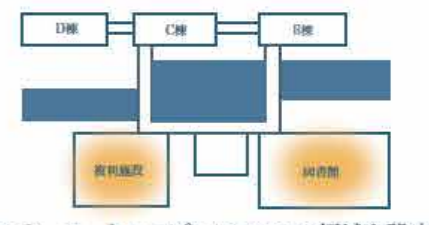
キャンパス内のビル風を緩和するため、建物群と並行して従来より多くの樹木を配置し、特にテラスや利用頻度の高い福利施設周辺での風環境の改善を図った。また、強い日射や建築表面からの放射熱を抑えるため、断熱層を備えた庇や反射性の高い仕上げを採用し、短波・長波放射の双方を低減する構造とした。



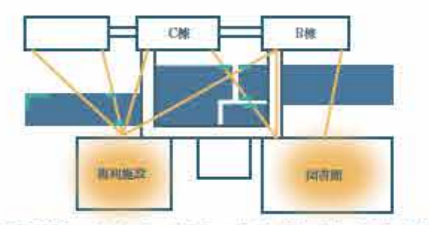
04 デザインダイアグラム



福利施設と他の棟が環状に繋がるよう庇を配置



センターコートいっぱいにテラスの領域を設定



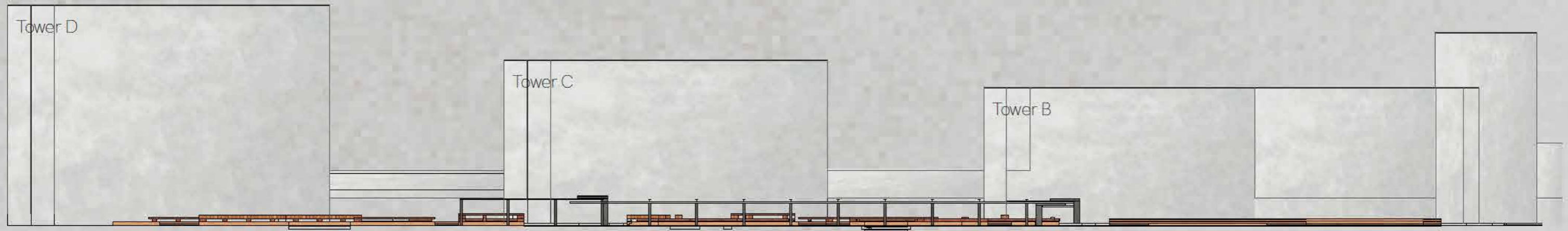
主要動線に合わせてテラスを分割・デッキを配置



優秀賞



平面図



立面図